ヴェ教授

「アイヌ研究」

二泊三日の課外授業を行った。今回 北海道での牧野ゼミの「アイヌ研究 は『講義の風景』の番外編として ミのゼミ生2人を伴って、北海道で 生は、ことしの夏休みに基礎演習が をとりあげた。 部会)で教鞭をとる牧野ウーヴェ先 ドイツ出身で、法学部(ドイツ語

牧野ゼミの北海道での課外授業は

明治時代の北海道や東北地方を書い 住民族のアイヌを研究テーマにする た旅行記『日本奥地紀行』などを著 ことになった。イザベラ・バードは 係で、バードが旅して著した北方先 ベラ・バードの著作を読んでいた関 した人物。同著は、アイヌの生活を ゼミでイギリス人旅行作家のイザ

さんの説明を聞き、一行はバードの が新岡さんで、看板をみながら新岡 ドの歩いた道を示す看板を立てたの を紹介してもらった。イザベラ・バー の道を巡る会」会長の新岡幸一さん 求めた一行は、「イザベラ・バード でアイヌについて詳しい人の紹介を れを見るのも目的のひとつだった。 で旅した足跡を示す看板があり、 は、イザベラ・バードがアイヌ研究 苫小牧市と登別市に接した白老町に の大集落があった白老町に向かった 新千歳空港に到着後、早速、 白老町に着き、観光協会センター アイヌ

校出身)の3人。

部2年、村崎菜々子さん(十文字高

ゼミ生の法学部2年、新家谷俊之さ 行われた。参加者は、牧野先生と、 8月4日から6日までの二泊三日で

ん(成城高校出身)と、同じく法学

北海道へ、アイヌを学ぶ2泊3日の旅 イザベラ・バードの旅行記を読んで

旅立った一行3人は、 化を知る唯一の文献 田空港から飛行機で となっている 時代初期のアイヌ文 紹介しており、明治 8月4日早朝、 羽



イザベラ・バードが歩い た道の看板

る踊りの一部を実際に見ることがで

きる。

アイヌ文化伝える「イオマンテ」

足跡を辿った。

世界に送り返すという儀式に使われ 産にもなっている「イオマンテ」と ある「ポロトコタン」と称するアイ いうヒグマなどの動物の魂を神々の の建物内にアイヌ文化を紹介する展 ヌ民族博物館。この博物館には、 示物が陳列されている。無形文化遺 イヌ民族の村が再現されており、 次に一行が訪ねたのは、白老町に そ ア

にクマを殺すので、最初は野蛮だと 村崎さんは「イオマンテは最終的



白老ポロトコタン

が、食べ物を与えて下さった神に対 べても感謝をすることはありません 生と普段なかなかできない話をした イヌ文化は全てのものを大切にして して感謝するという儀式を見て、ア いるのだと感じました」という。 初日の夜、食事をしながら牧野先

> た」という。 の、「意外な一面を知ることができ 新家谷さんと村崎さんは、牧野先生

思いました。でも私達は肉などを食

「繋がりを大切に」と牧野教授

物はなかった。「北海道と言っても たが、「ポロトコタン」ほどの展示 二日目は、 苫小牧博物館に行っ

推しているわけで ました」と新家谷 はないことを感じ 必ずしもアイヌを

さん。続いて一行

登別市にある

られる。『アイヌ 神謡集』はアイヌ 謡集』の著者で知 別市出身のアイヌ 幸恵」さんは、登 人で、『アイヌ神 に行った。「知里 知里幸恵記念館 をはせた。

「知里幸恵記念館」で。左から新家谷さん

切にする文化だね』と話していたこ 生が『アイヌは人と人の繋がりを大 業を通して、新家谷さんは を見て課外授業は終わった。 この後、登別温泉に行き、 課外授 「牧野先 地獄谷

なで記したもので、

ローマ字やひらが

言語学者の金田

語の歌をはじめて

に大きく寄与したといわれる。 機にあったアイヌの伝統文化の復活 京助が仲介して出版され、 絶滅の危

むつみさんに会うことができた。 里さんの姪で、記念館を建てた横山 幸恵さんの生涯を学んだ一行は、 新家谷さんと村崎さん。館内で知里 いて、とても居心地がよかった」と 記念館は「ポプラの木でできてい 知

さんは、知里さんの短い人生に思い 化に誇りを持つようになったという。 と言われ、自分が育ったアイヌの文 晒されたが、金田一京助と出会って 行った先の高校でも、厳しい差別に 校に進学することが許されなかった。 だという理由から、レベルの高い高 恵さんは、高校受験のとき、アイヌ 『アイヌ文化に誇りを持つべきだ』 「19歳で亡くなりました」と新家谷 頭がとても良かったという知里幸

> います」という。 とにとても共感でき、

> > 印象に残って

という村崎さんは、「アイヌ文化は アイヌを象徴するフクロウの銅像が というアイヌ語が使われていたり、 た」と課外授業を振り返った。 れられているという印象を受けまし まだ差別が根強いが、徐々に受け あることを知ることができました 「北海道では電車の名前にカムイ



アイヌ民族博物館で

(学生記者 堀滝登=文学部4年)